

学校職員避難所対応役割分担

収容人数 808人 避難施設面積 1617㎡
*「大仙市地域防災計画」避難所一覧より

<p>【施設・安全班】 使用箇所の明示 住居スペースの確保</p>	<p>担当者 佐藤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検と応急復旧 ・パーテーション設置 ・各種表示
<p>【総務班】 被災者受け入れ 問い合わせ対応 自治組織結成支援 ボランティア受け入れ</p>	<p>担当者 教頭、中安、齋藤、阿部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付の避難者名簿の作成と管理 ・避難状況の掌握（避難者数・健康状態他） ・自治組織結成に向けた準備 ・ボランティア人数掌握、活動計画
<p>【連絡調整班】 情報連絡活動（パソコン）</p>	<p>担当者 大河、藤田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害状況の把握と避難者への情報伝達（情報の複線化） ・避難者用緊急電話設置依頼 ・外国人のための案内看板設置
<p>【物資班】 毛布等の配給 衣料・生活物資受け入れ 炊き出し準備</p>	<p>担当者 市川、小原、大友、伊藤浩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所対策本部の責任者を通じて災害対策本部に請求 <p style="font-size: small;">* 本校の物資備蓄倉庫<大曲小学校・旧北神小学校 毛布・食料></p>
<p>【給食班】 食料及び飲料水の確保 炊き出し準備</p>	<p>担当者 市川、小原、高橋、大友、伊藤浩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食中毒等衛生面の配慮 ・避難者への配給計画
<p>【救護班】 負傷者への応急処置 医療機関との連携</p>	<p>担当者 養護教諭（伊藤志）、佐々木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当セット（保健室） 救急車 TEL 119 ・大曲厚生医療センター TEL (63-2111)
<p>【衛生班】 トイレ・ゴミ等の衛生管理</p>	<p>担当者 佐々木、伊藤志</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設トイレ設置までのトイレ管理 ・ゴミ集積場の決定・管理・ゴミの捨て方等の指示 ・伝染病、食中毒等衛生面の配慮

… 市担当者を責任者として自治組織中心に避難所が運営される

避難所開設以降

自治組織の設立

避難所運営委員会

リーダー **大川西根地区連会長 三浦 英司 氏**
内小友地区連会長 橋村 誠 氏

避難所運営に派遣された市職員 ・ 学校代表者
 避難者による自治組織の代表者 ・ ボランティア組織の代表者

事前に話し合っておきたい

- * 業務内容の割り振り（町内会等の自治組織や地域自主防災組織で）
- * 避難所における生活ルールの決定（清掃・点灯・消灯・ゴミ処理 他）

	自治組織（自主防災組織）の分担
<p>【情報班】 ・地域災害情報、防災関係機関への情報提供 ・地域住民への情報伝達</p>	<p>班 長 中邑 正 氏 他11名</p>
<p>【消火班】 ・消防団と連携し、火災の延焼拡大防止 ・各地域危険箇所の確認</p>	<p>班 長 加藤兼雄 氏 他11名</p>
<p>【避難誘導班】 ・避難指示、避難勧告及びおそれがある場合、住民への安全確保と避難所への誘導</p>	<p>班 長 伊藤広充 氏 他11名</p>
<p>【救出救護班】 ・建物倒壊、土砂災害時の消防機関への積極的協力と資機材提供 ・負傷者の救命及び応急措置 ・給食給水班と連携し支援物資の確保 ・暖房等燃料の確保</p>	<p>班 長 高橋 明 氏 他11名</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 本避難所最寄りの備蓄倉庫（大曲小学校、旧北神小学校） </div>	
<p>【給食給水班】 ・大仙市から配分された食料・飲料水の配分と地域内から提供された食料等の配分及び炊き出し</p>	<p>班 長 中邑喜勢治氏 他11名</p>

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 避難所開設訓練
(9月4日、大曲西中学校)

大仙市長様、市教育委員会の皆様をはじめ、地域住民の方々、公民館長、大曲消防署、警察、市役所の総合防災課、小学校からの見学者も合わせて約300名が参加する中で、避難所の開設訓練を行いました。中学生のサミットメンバーは前庭への避難から訓練に参加し、その後「総務、施設・安全、広報、物資、給食、救護、保健衛生」の7班に分かれて、西中生と共に活動をしました。

避難所の運営にあたって、生徒は次のような役割分担をしました。

- ☆総務班：本部設営、受付業務、避難所運営（避難住民のケア・生活についてのお知らせ・各班の連絡調整）にあたる。
- ☆施設・安全班：居住スペースの確保や施設の安全点検にあたる。
- ☆広報班：案内・表示や避難住民への情報掲示を行う。
- ☆物資班：物資（水）の受け入れ、飲料スペース設置、避難住民に配給（アルファ米）、ランタン設置を行う。
- ☆給食班：炊き出し（おみそ汁）を行う。
- ☆救護班：応急救護スペースの設置、避難住民の健康状態の確認・把握を行う。
- ☆保健衛生班：トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行う。



日程 ■4日(木)

- 14:30 地震発生、避難訓練
- 15:10 避難所開設準備
- 15:30 避難住民受け入れ開始
- 16:15 食事の提供
- 16:35 自主防災組織への引き継ぎ
- 16:50 避難住民帰宅
- 17:00 食事
- 17:30 撤去、後片付け
- 18:30 避難所訓練終了の会



避難訓練終了の会



避難開始:生徒玄関より



2階より避難する3年生



駐車場に避難完了



体育館にて避難所開設を指示



居住スペースづくり①



居住スペースづくり②



避難者の受付



救護班の聞き取り調査



広報班による情報提供①



給食班による炊き出し



広報班による情報提供②



自主防災組織への引き継ぎ



自主防災組織への引き継ぎ



避難所運営終了の会



防災管理監のお話

26年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるような態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 平成26年10月30日(木)

3 実施場所

大曲中学校 校舎内(体育館含)及び校地内(前庭, 駐車場, グラウンド等)

4 参加者

大曲中学校生徒(751名)
 教職員(60名) PTA会員(15名)
 若竹町住民(25名) 大仙市消防本部
 大仙市防災課 大仙市水道局

5 実施内容

○訓練1 (地震避難…1・2・3年生)

平成26年10月30日(木)午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが30秒ほど続いたという想定である。揺れが収まったのを確認後、指示に従い一斉に体育館に避難した。



○訓練2 (煙道避難…1年生・若竹町民)

地震発生後、校舎内の多数の箇所では火災が発生。廊下が煙幕で避難通路の視界が遮られたことを想定し、煙道(煙体験ハウス)を通して避難した。



○訓練3 (初期消火活動…1年生・2年生)

火災発生後の初期消火活動として、水消器による消火活動を行った。



○訓練4 (水害避難…1~3年生, 避難所開設…2・3年生・若竹町民)

前日からの大雨の影響で雄物川流域の河川が増水し、若竹町の一部の住宅では建物の床上・床下浸水が相次ぎ、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、大曲中学校は避難所に指定された。地域の被害状況を確認後、校長が、避難所開設の指示を出し、避難所開設に取りかかった。



○訓練5 (心肺蘇生CPRとAED…3年生)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。



傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。

○訓練6 (炊き出し…1~3年生・若竹町民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



6 訓練を終えて(今後の課題)

若竹町内会から30名、PTAから10名の参加をいただき、昨年に引き続き諸機関者含め総数820名により実施することができた。今後も防災意識を地元住民と中学生が互いに高め合い、いざというときに備えることの大切さを改めて感じた。また、自助・共助の重要性を確認できたことにも意義があった。地元町内会・市総合防災課・市水道局・大曲消防署等諸機関との事前の打ち合わせの回数を昨年度よりも増やした。その結果、担当者も流れがより把握でき、円滑に訓練を行うことができたと感じた。しかしながら、新人総体、学校祭、学期末考査、学期末評価、生徒会選挙等と並行しての準備となるため、実施する場合は、実施時期や担当者の精選等、学校事情に配慮する必要性を感じた。

平成26年度 平和中学校避難所開設宿泊訓練

「自分たちのふるさとを自分たちの手で守る」

- 期 日 平成26年9月16日(火)～17日(水)
- 場 所 大仙市立平和中学校
- 対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民・神岡小学校6年生・大仙市防災課職員・地元企業他
- 内 容 本校では、次のような想定の下、右下の表の日程で訓練を実施しました。

9月16日(火)午後2時30分頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、6校時の授業中に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力することとなった。

■活動の様子



総務班（生徒会執行部）
被災者受け入れや名簿作成を行いました。また、各係との連絡調整も行い、避難所の本部的役割を担いました。

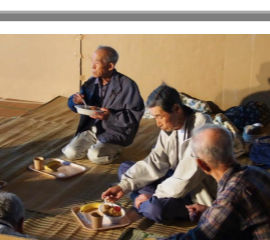
施設・安全班（生活、体育）
住居スペースの確保や施設の安全点検を行いました。

日程 ■16日(火)

- 14:30 地震発生、避難訓練
- 15:30 避難所開設準備
避難者受け入れ開始
- 17:00 炊き出し開始
- 18:00 食事配膳・夕食
- 22:00 就寝

■17日(水)

- 6:00 起床
- 6:30 朝食準備
- 7:00 朝食（非常食）
- 8:00 避難所運営終了の会



広報班（広報）
案内・表示や避難者への情報伝達を行いました。

物資班（購買、図書）
物資の受け入れや避難者に配給を行いました。

給食班（給食、学習、各班）
食料及び飲料水を確保し、炊き出しを行いました。また、各班と協力しながら避難者への食事の配給も行いました。



救護班（保健）
避難者の健康状態の確認・把握を行いました。



衛生班（JRC、整美）
トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行いました。



- 成 果
- ・災害時における避難所開設にあたり、生徒・教師・地域住民が一体となって避難所運営を行うことができました。
 - ・訓練参加者による組織編成を行い、災害時を想定した具体的な活動に取り組みながら、避難所運営に関わる役割分担や協力・支援方法を学ぶことができました。
 - ・地域の一員である中学生が自分の役割を自覚し、主体的に運営に参画することができました。



小学校の交流活動 & 避難所開設訓練

南外小学校	7月23日(水)	被災地訪問と交流 (南外中学校と共に)
神岡小学校	10月17日(金)	被災地へうちわや益金による支援 (平和中学校と共に) 地域避難訓練の実施
豊岡小学校	8月1日(金)	気仙小学校訪問 学校田で収穫したお米のプレゼント
太田東小学校 太田南小学校 太田北小学校	7月9日(水) ～10日(木)	「太田子ども会議」による交流計画立案 三小学校合同修学旅行での花植え交流 メッセージうちわやお米の贈呈



平成26年度南外小学校 被災地交流の実績

1 交流被災地 宮城県本吉郡南三陸町 志津川小学校、志津川中学校、仮設自治会館

2 期 日 平成26年7月23日（水）

3 参加児童 6年生全員（16人）、引率教員5名、保護者10名
※南外中学生徒会と連携して実施

4 被災地訪問&交流Ⅰの概要

(1) 被害箇所の見学・・・防災庁舎、旧漁業市場



(2) 志津川小学校、志津川中学校の先生方、仮設自治会館の皆様と交流



↑幸いにも、その日、志津川を訪れていた天皇陛下に拝謁

(3) 児童の感想

- ・宮城県本吉郡南三陸町に7月23日に行きました。最初に行ったのは、防災庁舎です。そこにはたくさんの千羽鶴が飾られていて、線香がたかかれていました。多くの方がここで亡くなったことが分かりました。中学校で見たビデオでは、本当に津波のつめあとが大きかったです。(I. N)
- ・私が夏休み中に心に残ったことは被災地訪問です。南三陸町に行きました。建物はボロボロで、特に防災庁舎は、私が見た中では津波の傷跡がよく分かるくらいボロボロでした。震災は恐ろしいものだなあと感じました。志津川小・中学校で聞いた話だと、一番高い所で津波が30mくらいにもなったと聞きました。地震はいつくるか分からないので、日頃から気をつけて過ごしたいと思いました。(I. M)
- ・夏休み中の思い出の一つは、南三陸町を訪問したことです。最初に防災庁舎に行きました。防災庁舎は、鉄の骨組みしか残ってなかったし、近くには漁業用の船が流されてきていたので、津波はすごく力が強いのだなあと感じました。小学校に行って話を聞いたら、学校は高台にあって助かったけど、津波はすぐ近くまで来たという話や、図書室にある棚などが全部倒れたという話を聞きました。地震の怖さを感じました。仮設住宅に行くと、隣と家がくっついていたので、生活は不便だろうなあと感じました。生活が元通りになるまでは大変だろうなあと感じました。(S. S)
- ・私は夏休み中、南三陸町に行って来ました。3年たった今でも、津波が押し寄せてきたところが分かりました。仮設住宅のみなさんは、津波がきたときの様子をいろいろ話してくれました。つらいはずなのに、みなさん笑顔をやさしくことなく私たちの質問に答えてくれて、とてもうれしかったです。(S. M)

5 交流Ⅱ

(1) 学習田で収穫したした「あきたこまち」を南外中のお兄さん・お姉さんに託し志津川小へ（10月20日）



大槌町との交流

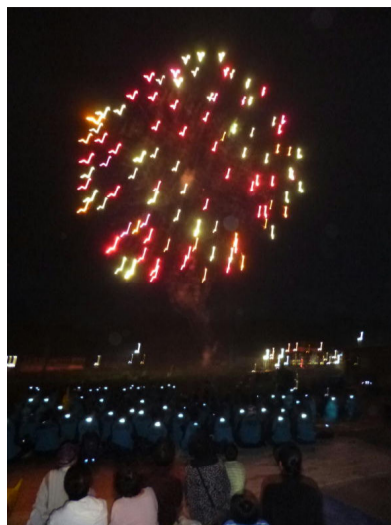
～平和中学校との連携から～

大仙市立神岡小学校

9月4日(木)

平和中学校の全校生徒が岩手県大槌町を訪問し交流してきました。

神岡小学校では、全校児童が大槌町の皆さんにメッセージをうちわに描いて(書いて)、平和中学校の生徒から届けていただきました。



平和中提供、大槌町での花火大会



花火大会に廃品回収での益金で支援しました。



水害を想定した地域避難訓練

10月17日(金)

大仙市立神岡小学校



避難してきた地域の方々を校舎3階に案内します。



車イスの方を、階段昇降機で慎重に案内します。

避難対象の4町内の方々に、町内毎に各教室に避難していただきます。6年生児童が、名簿作成をしています。他の児童は、飲み物を配ったり、トイレへの案内をしたり、それぞれの役割を果たしています。

◇ 訓練の流れ ◇

- ・ 神岡支所市民サービス課長より、校長に避難所開設を要請。(課長が来校)
- ↓
- ・ 校長から職員と6年生児童に避難所開設の指示。
- ↓
- ・ 神岡小学校3階に避難所を開設。地域住民が避難開始。
- ↓
- ・ 安否確認をし、訓練終了。* 体育館に移動し全体会



水害状況、緊急避難グッズ資料コーナー



約50名が避難



全体会で、大仙市防災管理監から講評をいただきました。



段ボールトイレ

復興に花と笑顔を

太田地域連合修学旅行団被災地交流プロジェクト

大仙市立太田南小学校・太田北小学校・太田東小学校

◎太田地域では、3小学校合同修学旅行において、昨年度から被災地に花を植える交流活動を行っている。今年度は、3校合同で事前学習を行い、交流プロジェクトのキャッチコピーや花壇のデザインを考えた後、修学旅行初日に交流活動を行った。

◎当日は、仙台市復興支援サポートステーションや地権者、地元の大学生等と一緒に花苗植栽の交流活動を行った。3小学校は、この交流活動により子どもたちに被災地の現状を実感させ、太田中学校進学後の本格的な岩手県大槌町支援活動に結びつける考えである。

プロジェクトの流れ

事前交流会での合同道徳

キャッチコピーの募集



花壇デザインの募集

修学旅行での花植え交流活動

太田中学校と連携した活動

- ・太田子ども会議(児童会・生徒会代表者の合同会議)で被災地交流計画を協議
- ・アルミ缶回収の継続
- ・メッセージうちわの作成
- ・夏季休業中の大槌町訪問へ小学生や保護者の希望者やマーチングバンドが参加
- ・まごころ米の贈呈

事前の活動

新聞記事を題材にした三校合同の道徳授業



当日の交流活動

ボランティア活動の状況や復興の進捗状況について説明を聞いた後、一緒に花植え作業を行った。



事後の活動

「東日本大震災復興応援メッセージ展」に出品した太田東小学校の寄せ書き



活動の振り返りや感想

進もうよ 明るい未来へ！

太田東小学校 田沢美侑

私は、花を植えながら東日本大震災でできずつたこの町、この町の方々が私たちが植えた花によって元気や笑顔を取りもどしてくれたらなあ、というようなことを考えました。終わったら、立派に育ちきれいな花が咲き、明るい町になってほしいと思いました。これから、秋田から1日も早い復興を願って、やれることは積極的にやっていきたいです。

太田東小学校 高橋侑希

ボランティア活動は仙台市若林区種次地区に行って花植えをしました。被災地の人が元気を取りもどしていつも笑顔になってほしいなという思いで植えました。花を植えたとなりに家が一軒あって、その家の人は一人しか生き残らなかったからその人を元気づけて被災地の人もみんな元気になってほしいと思いました。そして、笑顔を忘れずにいてほしいと思いました。

太田北小学校 藤澤希築

種次地区に行って見た風景は、建物や木はほとんど無く、だれも住んでいないこわれた家が2、3軒あるだけでした。ぼくたちは、白のベゴニアを植えました。すこしでも災害にあった方々の笑顔が増えることを願って、花を植えました。

太田北小学校 高橋凜湖

今年、全校で田植えをし、秋になって稲刈りをしたお米を、大槌町に届けました。すこしの量でしたが、力になれるようにと心をこめて送りました。中学校に行っても、被災地の方々の笑顔がふえるよう交流活動を続けたいです。

太田南学校 戸澤梓桜

私は、被災地で花を植えながら、周りには何もなくて太田とは比べものにならない風景にびっくりしました。私は、はやく復興して欲しいと強く思いながら植えました。そして、被災地の人たちに一人でも多く笑顔が増えてほしいと思いました。これからは、どんどん復興が進んで、元の町にもどってほしいです。

太田東小学校 水谷桃花

私は花を植えながら、仙台市若林区のみなさんが笑顔、元気を少しでもとりもどしてくれたらいいなと思いました。花植えが終わって、もっと3年目にあったことを聞いてみたいと思いました。そして、これからはボランティアに参加していきたいと思いました。

太田北小学校 佐々木駿也

被災地は津波でこわされたままの建物がまだたくさんありました。その中に学校もありました。ガラスは割れて、周りにはどろやガラスのようなものもありました。花植えをするところに行ってもこわれた家がありました。種次地区のみなさんの心がやすらぐように、すこしでも笑顔がふえてほしいという思いで花を植えました。

太田北小学校 近藤穂佳

修学旅行で被災地の種次地区に行きました。雑草が生え、こわれて人が住んでいない家もありました。木も少ししかないところでした。私たちは白のベゴニアを植えました。その時「いつまでもきれいに咲いてほしい」という思いで植えました。

太田北小学校 高橋歩花

修学旅行で種次地区で花を植えたとき、「被災地の人々が笑顔になってほしい」という願いをこめて植えることができました。また、春に植えた稲が大きくなり、10月に稲刈りをしました。そのお米の一部を大槌町に送りました。中学生になっても被災地との交流活動があるので、がんばろうと思っています。

太田南学校 田口芳美

私は、被災地を訪れてみてとても被害が大きかったことが分かりました。中学生になったら、このような活動を通していろいろな人とふれあったり、関わりあったりして被災地に笑顔と元気を届けられるようにがんばりたいです。私は、被災地が元の町にもどるようにこの活動を続けていきたいと思っています。

気仙小学校を応援しよう

大仙市立豊岡小学校

「今年もおいしいお米を送るぞ」 ◆全校田植え：平成26年5月28日（水）



たくさんの協力をいただいて
「米の子スクスク田んぼ」に田植え



心をこめて たいせつに



たくさんのお米が送れるといいね

「ワクワク・ドキドキ初訪問」 ◆陸前高田市立気仙小学校訪問：平成26年8月1日（金）



気仙小学校に着きました



お米はこうやって育てています



交流ゲームで仲良くなりました



おいしいお米を送ることを
約束してきました

「いっぱい送れそうぞ！」 ◆全校稲刈り：平成26年9月30日（水）



案山子が見守りました



全校みんなの力をひとつにできました



「ハサ」まで運びます



気仙小の皆さんからメッセージをいただきました

「今年も送るぞ 200kg」

◆お米を送ろう：平成26年11月中旬予定



今年も豊作でした

- ★ とれたお米を2kg ずつ小分けにして120袋を気仙小学校に送ります。今年は、240kgになります。
- ★ 小分け作業は、5年生・6年生が担当します。
- ★ メッセージは、全校児童一人ひとりが書き入れます。
- ★ 最後にみんなの思いを添えましょう。

見て聴いて やって感じて 思いを届ける

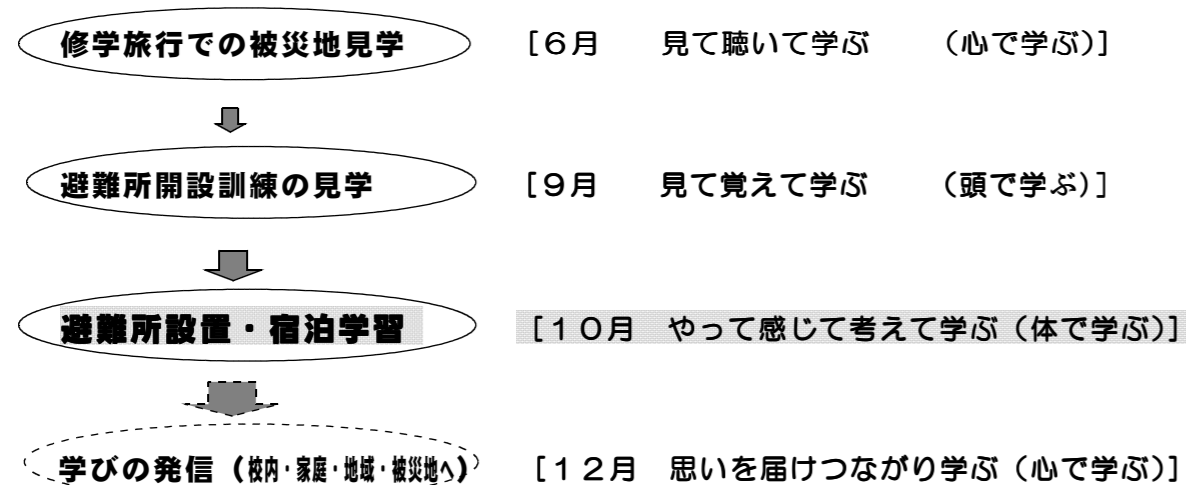
～防災体験学習を通して思いを育て届ける～

大仙市立西仙北小学校

避難所設置宿泊体験学習のねらい

- ① 避難所設置の目的や意義を実感的に理解させる。
- ② 避難所宿泊体験を通して共感的な理解を促す。
- ③ 被災地や避難所開設訓練の見学をつなげ生かし、社会参画へと学びを発展させる。

【学びの流れ】



【写真でたどる学びの様子1】

《修学旅行での被災地見学》



[被災直後の写真と語り部] [家々が津波にのまれた跡地] [亡くなった子供達を弔う地藏] [広大な土盛り復旧工事]

《避難所開設訓練の見学》



[避難の様子を真剣に見学] [避難所に必要な物品をメモ] [居住スペース作りを確認] [受付の内容と仕方をメモ]

【写真でたどる学びの様子2】

《避難所設置・宿泊学習》



[シートを敷き次は壁作り] [作業には協力が不可欠です] [居住スペースが今夜の寝室] [居住スペースが見事完成]



[夕食「豚汁」の味見] [夕食を受け取る子供達] [夕食「わかめごはん」] [アルファ米の味は?]



[間もなく就寝時間です] [朝方、暖をとる子供達] [起床し寝具を片付けます] [居住スペースの解体・撤去]

【感じたこと・思ったこと・考えたこと】

1日泊まるだけでもたえきれなかったのも、一か月も生活するのは、どれほどたいへんかということを感じることができました。

寝ていてだんだん寒くなり、起きたら体や首が痛く、こんな生活をずっと続けるのは、たいへんなことだと改めて思いました。

眠るときにすごく寒くて、なめてたなあと思いました。東日本大震災の時は雪が降っていて、もっと寒かったなあと思いました。

アルファ米は、普段のご飯より味がなかったけど、お湯を入れるだけでできるなんてすごい便利だなあと思いました。

日本は地震国。だからこそ、備えは大事だなとこの体験を通して思いました。また、避難所での生活は、物音(せき、くしゃみ、声、足音など)が響くし気を遣うので落ち着かず、とても厳しいものだとも体験することでよく分かりました。

段ボールで部屋を作ったとき、運ぶ人、ガムテープを切る人、貼る人、支える人など、作業を分担して協力して素早く作ることができてよかったなあと思いました。

段ボールを組み立てる時はとてもたいへんでした。かべには三角の段ボールをところどころにつけ、たおれないように工夫しました。

避難したときは、みんなと協力し合い支え合いながら生活をしなければいけないんだなあと思いました。ふつうのことが、とても幸せなことなんだなあと思えました。

体験し学んだことを5年生や家族、お父さんやお母さん方、地域のみなさん、県民のみなさん、そして、被災地の語り部の方やみなさんに、発表や作文やお手紙で伝え届けたいと思います。私たちができること、私たちができることで、みんなが少しでもハッピーになれば!

